

## 呼吸器内科を主とする開業

日本臨床内科医会副会長（学術部担当）

ばんどう内科・呼吸器クリニック院長

坂東琢磨

私は石川県金沢市の出身で、1989年に金沢大学医学部を卒業し、同年金沢大学医学部附属病院第三内科（当時）へ入局しました。この医局は、大学病院では血液内科、呼吸器内科、心療内科、そして感染症内科の診療を主に担当していました。私は臨床研修の後に呼吸器グループに加わり、専門医として14年の間、大学病院やその関連病院で診療に明け暮れつつ、病院勤務の傍ら、日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会などの専門医を取得し、また肺癌をテーマとする基礎研究により学位（医学博士）を得ました。他に、気管支喘息などの気道疾患に関する臨床研究の原著論文や症例報告の論文を国内外へ投稿しましたが、後に振り返ると当時の考察の内容に疑問を抱くこともあるなど、学術的回顧録として論文執筆の意義はあったと回想しています。

2002年に金沢市に隣接する白山市（旧松任市）で開業しました。開業することによりさらに多くの患者さんに対し、それまでに得た専門知識や経験をもとに、正確な診断と過不足のない適切な治療を日々直接的に提供したいと願ってのことです。当時のこの地域には、呼吸器学会専門医が存在しませんでした。

さて、呼吸器疾患の最大の特徴は、「症状がある」ということではないでしょうか。それ故、診断と治療の適不適が、症状が軽減あるいは消退するかという結果に如実に現れます。咳嗽、喀痰、呼吸困難はその代表的症状ですが、原因となる疾患は多彩で、感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患、悪性腫瘍など、鑑別すべき疾患の領域も広域です。正確な診断には専門医としての知識と経験が十分に役立ちます。これが開業後も、呼吸器内科専門医が即座に活躍し得る要因だと考えています。

診断への第一歩は、言うまでもなく問診です。それは、呼吸器内科に限ったことではありませんが、例えば「咳が止まらない」患者さんへの確認事項は多数あります。発症時に感冒症状は？発熱は？喀痰や血痰はあるか？喘鳴を感じるか？労作時呼吸困難は？症状が悪化する時間帯は？体重減少はないか？寝汗はないか？花粉症や鼻炎はないか？過去に同じ症状はなかったか？まだまだあります。咳嗽のお話については、日臨内ホームページにある「かかりつけ医のためのWEB講座」のアーカイブにアップロードされている「長引く咳の診かた…」をご視聴ください（アーカイブの視聴は会員限定です）。

専門医として正確な診断を得るためには、ある程度の検査機器は必要でしょう。単純 X 線撮影（胸部、副鼻腔）、呼吸機能検査（簡易スパイロメトリー）、呼気一酸化窒素測定、経皮的酸素飽和度測定、これらは咳嗽、喀痰、労作時呼吸困難を訴える症例の診断に相当役立つことでしょう。禁煙外来を実施するためには、呼気一酸化炭素測定も必要です。また、身体障害者（呼吸器機能障害）の認定診断には、動脈血ガス分析が必要ですが、診察室内に設置できる程度の大きさの機器もあり、あると便利でしょう。胸部 CT もあると便利ですが、十分なスペースとランニング・コストが必要なので、必須の機器ではないと思います。当クリニックは開院から 20 年以上経過しており設置可能な空間も確保可能ですが、胸部 CT 検査については、未だに近隣の病院へ紹介し画像データと放射線科専門医の読影レポートを得ている状況です。紹介の手間はかかりますが、設備投資や定期的なメンテナンスが不要であり、さらに二重読影が即座に成立することが大きなメリットだと思われます。他に、血液検査全般をはじめ、喀痰培養、細胞診、結核菌群 PCR などの病原微生物検出検査などの検体検査は検査会社に委託しています。電子カルテが検査外注先と同じ会社の製品であるため、血液検査結果がオンラインで通知されカルテに反映されており、これは事務作業の省力化に相当役立っています。なお、気管支鏡検査は実施しておらず、専門医が在籍する病院へ紹介しています。ある程度リスクの高い検査であり、複数の医師で担当すべき検査だと認識しているためです。

これから呼吸器内科を主として開業を志す皆様へ、私の思いを述べさせていただいています。既にお気づきかと思いますが、当クリニックには特別な設備はありません。呼吸器疾患への対応は問診が最も重要で、第二には聴診、これらが診断の大きなカギであり、その後に診断の裏付けとしての検査があると認識しています。内科医であればほぼ例外なく聴診器を持ち診察にあたるでしょう。しかし、呼吸音を正確に聴取するには相当な訓練が必要で、長年呼吸器専門医として診療を担当した医師でなければ身につけていないレベルは必ずあると思います。その技術を生かし、また蓄積された知識と経験を踏まえ、呼吸器を専門とする実地臨床医としてご活躍されることを期待してやみません。

最後に、日本臨床内科医会は会誌、WEB 講座、医学会や総合学術集会（総会から改称）などの学術企画を通じて、会員の皆様へ最新かつ実地臨床に即した医学情報を提供しています。特に開業後も学術活動に意欲を抱いておられる先生方が、実地臨床医でなければ実行できない研究、あるいは実地臨床医であるからこそ気づく臨床的命題を解決できるような斬新な臨床研究を企画遂行するにおいて、日本臨床内科医会は最も適切な臨床医の集合体であると思います。多くの先生方の参画を願っています。